

稿本『古今和歌集遠鏡』について

今西, 祐一郎
九州大学教授

<https://doi.org/10.15017/8963>

出版情報 : 文献探究. 43, pp.101-125, 2005-03-31. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

稿本『古今和歌集遠鏡』について

今 西 祐 一 郎

○ 本居宣長の『古今集遠鏡』は、寛政九年刊行の版本で流布し、近代になっても「歌謡俳書選集」版（昭和二年刊）や吉川弘文館、筑摩書房による二度の『宣長全集』においても、版本の翻字が提供されてきた。

周知のように、版本には宣長の俗語訳と解釈のほかに、ところどころ、『遠鏡』の出版を宣長に慫慂し出版に尽力した横井千秋による、「千秋云」で始まる千秋の説が細字で記入されている。

一方、本居宣長記念館には「清書本」といわれる写本が存在し、他にもそれに類する写本が二、三見いだされる。筑摩書房版全集では、「内容は刊本とほぼ同じ」と述べるにとどまり、それ以上の紹介はなされなかった（第三卷『遠鏡』解説）が、実は記念館蔵写本には刊本が備える「千秋云」がすべて無く、また『遠鏡』本体の俗語訳、解釈の部分においても、少なくとも言い回しの次元ではかなりの相違が見いだされる。

反町茂雄『弘文荘名家真跡図録』（昭和四十七年六月）において「本居宣長自筆草稿、鈴屋の印あり」として紹介された『古今集遠鏡』巻五の零本は、『図録』掲出部分に関するかぎり、記念館蔵「清書本」

と一面の字配りのみならず、仮名の字母まで完全に一致する。反町氏の「自筆草稿」を認めれば、記念館本はその忠実な写しということになろうか。

また、『国書総目録』の『古今和歌集遠鏡』項の最初に「国会（自筆）」として掲出される国会図書館蔵写本も、字配り、字母は異なるものの、「千秋云」をすべて欠き、俗語訳、解釈の部分も記念館「清書本」と完全に一致する。

○ 宣長記念館に自筆稿本として所蔵される写本『遠鏡』については、岩田隆氏が、新出の横井千秋宛宣長書簡に拠って、自筆稿本ではない可能性を指摘した。

○ 宣長が千秋に対して自筆稿本の写しの提供を求めていたこと

○ 宣長記念館所蔵の稿本『遠鏡』は宣長筆と酷似するものの自筆とは認めがたいこと

などの点から、宣長記念館蔵写本は宣長自筆稿本ではなく、宣長の求めに応じて横井千秋から届けられた写し、宣長書簡中の用語でいえば「叩本」ではないかと推定する（『宣長学論攷―本居宣長とその周辺―』）。

とすると、巻五のみしか残されなかった『弘文荘名家真跡図録』所載本が、宣長自筆稿本であり、本居記念館本はその写しということになるのであるうか。

ところで、近時、宣長記念館蔵本と酷似する写本が出現した。六巻六冊、各葉の字配り、行数、使用字母にいたるまで寸分違わない一本である。しかし、時に「レ↓ト」、「ユ↓エ」、「カ↓コ」、「ヌ↓ス」、「ナ↓ト」、「ク↓ウ」、「ツ↓フ」、「ツ↓ワ」など字形の似たカタカナの誤記が見られ、宣長自筆などではもとよりあり得ず、おそらくは宣長自筆本もしくは「叩本」たる宣長記念館本の、きわめて丁寧で忠実な写しであると考えられる。

ただし、この新出写本でいささか気になるのは、蓋に「本居宣長翁自筆 古今集遠鏡」と墨書された古色を帯びた桐箱入り、という点である。しかし中身は前述のように自筆本とは認めがたいゆえ、伝来の過程で中身がすり替わるような事情があったのかもしれない。

○ 写本『遠鏡』の内容について「刊本とほぼ同じ」であるという筑摩書房版『全集』第三巻の指摘が正確でないことは、すでに岩田隆氏が前掲書において一、二例を挙げて言及しているが、稿本・版本間の膨大な数にのぼる異同は、宣長の推敲の痕を示す資料としてはなほ興味深い。過日、一読のついでに記した対照表を以下に掲げて、諸賢の考察を待つ。

付記 岩田隆氏の研究ならびに著書については、盛田帝子氏の教示を得た。記して謝意を表する。



『古今和歌集遠鏡』 版本・写本異同一覧(上)

(上段版本・下段写本)

端書

いま	今	(はし一才4)	ことに	事に	(同)
その山ちかき里人	かしの近き里人	(同)	えりすつべき	はぶくべき	(同)
語り聞せたらむ	かたりしらせたらん	(同)	又時々のみまめきことば	ナシ	(はし三才1)
ちかくて	近くて	(同)	詞して	詞をもて	(同)
とをきも	遠きも	(同)	みやびごと	みやび言	(同)
今此	今この	(同)	ふと	ナシ	(同)
くれなる	紅	(同)	あらはなるもの	あらはなる物	(同)
このめがね	此めがね	(同)	聞ゆるふし	聞ゆること	(同)
尾張	ナシ	(同)	いきほひにしたがひて	いきほひによりて	(同)
はじめよりつけひきて	もとよりつけ引て	(はし二才1)	趣なる	ナシ	(同)
あながちに	からくして	(同)	いきほひはしも	いきほひは	(同)
同じぬし	同じ主	(同)	わきがたければ	分がたければ	(同)
こゝろざし	心ざし	(同)	その	ナシ	(同)
いにしへの雅言みな	古のみやびごと暨	(同)	まつさく	まつ咲	(はし四才1)
おほぎ	多き	(同)	せどつか	せどつ歌	(同)
みやびごと	雅言	(同)	いまの	ナシ	(同)
あれども	あめれど	(同)	詞	趣	(同)
ことば	詞	(同)	かゝるたくひいろく	ナシ	(同)
			おほし。なすらへてき		
			とるべし		
			みやびごとは	みやびごとは	
			分れたることを	わけていふことを	
			わかれたる	分れたる	
			あるゆゑに	有ゆゑに	
			ひとつ俗言	一ツ俗言	

其意	その意	(同 10)	入れて	入て	(同 6)
そのすべてのことをもて	其詞の意を	(はし四ウ2)	いきほひ	勢ひ	(同 7)
サカズ二八	咲ズ二八	(同 5)	いきほひ	勢ひ	(同 7)
と	ト	(同 5)	いふ事	いふこと	(同 10)
もとの	本の	(同 6)	ちかければ	近ければ	(同 2)
もとの	本の	(同 7)	さるを	然るを	(同 4)
まもりて	守りて	(同 7)	わかむ	分む	(同 4)
うとし	たかへり	(同 10)	にぞあらむ	にもあらん	(同 7)
云タモノデ	イフタ物デ	(同 10)	ちり	散	(はし七才1)
有	あり	(はし五才9)	とやうにいひて	といひて	(同 7)
しもじをもじなど	しをなど	(同 ウ4)	散	ちり	(同 9)
譯言	譯辭	(同 4)	散夕後二サ	散夕後二	(同 9)
おほし	多し	(同 5)	其野	ソノ野	(同 10)
オホウ	多ウ	(同 6)	同じこと	同じ事	(同 ウ1)
ころかなのたくひは	ころかなは	(同 8)	うつせば	譯せば	(同 3)
上に	上へ	(同 8)	かうやうにも	かくさまにも	(同 4)
たくひ	類ヒ	(同 10)	アラウらんにあたりカ上	アラウがらんにあたりり	
ところ	所	(はし六才1)	のやにあたれり		(同 6)
ものうかるね	物うかる音	(同 2)	さくらん	咲らん	(同 8)
ものうかる音	物うかるね	(同 2)	ドウイフコトデ	ドウ云コトガ	(同 10)
ぞもじは	ぞもじ	(同 3)	ナク	鳴ク	(はし八才1)
其ころをえて	その意を得て	(同 4)	いふ也	いへり	(同 2)
てにをはの事ぞもじは	てにをはのぞもじ	(同 5)	又	また	(同 3)
香	か	(同 5)	うたがへる	疑へる	(同 6)
力を入たる	力ある	(同 6)	ありて	有て	(同 6)

るをはぶける也	例のるをはぶきていふ也	ア、ハレ	ア、ハレ(誤写)	(同)	10)
おもむきに	趣に	其詞	その詞	(同)	10)
らしもサウナも共に	共に	世の中	世中	(はし十才)	1)
ついでに	つのでに	おほき	多き	(同)	9)
たがひとのみ	たがひのみと	せむとて	さとさむとて	(同)	9)
フルサウナの意也	フルサウナ也	詞	言	(同)	ウ8)
言を	詞を	短くも	みじかくも	(同)	10)
などもして	などして	そへて	添て	(はし十一才)	4)
ふくめたる	ふくめる	そのおもむき	其趣	(同)	4)
なり	也	たしかに	なほたしかに	(同)	4)
あり	有	ところ	所	(同)	6)
もと	本	いにしへ	古	(同)	ウ1)
つゞまり	約まり	今の世の	今の	(同)	1)
さだまり	定まり	ことゞも	事ども	(同)	2)
なりぬるをば	なりぬるは	多かれど	多けれど	(同)	2)
来つるをば	来つるは	みな	皆	(同)	3)
見たるをば	見たるは	さだめ	定め	(同)	3)
有しをば	有しは	なほ	猶	(同)	4)
如し	ごとし	也	なり	(同)	6)
所	こと				
ハレヨイ子チャ	ハレセウシナコトヤ	仮名序			
この	此	水ニスンデアル	水ノ中ニスンデアル	(序一)	オ9)
ア、とハレとをつらねて	ア、といひハレといふと				
いふ辞なれば也	同じことなれば也				

ヨマヌゾ	ヨマヌゾ(誤写)	(同)	10)	ナニハツトアサカ山ト	ナシ	(同)	7)
メンくニソレくノ	ソレくノ	(同)	ウ1)	マツ	ナシ	(同)	8)
ヨムチヤワイノ	ヨムジヤワサテ	(同)	1)	詩ニモ	詩デモ	(同)	10)
シツカリト	シツカリト(誤写)	(序二)	オ5)	此六ツノワケガサアルデ	カウデサアラウ	(同)	10)
御内シヤウデアツタ	御内儀デアツタガ	(同)	10)	アラウ		(同)	10)
下照姫ノ兄ゴガ	兄ゴガ	(同)	ウ1)	六イロト云	六イロノ	(同)	ウ2)
ソノ身ノ光リ	ソノ光リ	(同)	1)	オヨソヘ	オソヘ	(同)	2)
数ナドモ	数モ	(同)	2)	サウデアアラウ	ソデアアラウ	(同)	6)
わきがたし	にきがたし(誤写)	(同)	7)	カゾヘ哥	コゾヘ哥(誤写)	(序六)	オ5)
今見テハ	ナシ	(同)	9)	タトヘナドモ	タトヘテドモ(誤写)	(同)	5)
三十一字ニサヨムコトニハ	三十一字ニヨムコトニハ	序三	オ3)	此咲花ニト云哥	此哥	(同)	6)
シテソノ御哥	其御哥	(同)	7)	心チヤ	コトチヤ	(同)	6)
時二	時	(同)	8)	オマヘガケサ別レテ	君ガケサカウ別レテ	(同)	10)
出ル雲	テル雲	(同)	ウ1)	イナシヤツタナラ	インダナラ	(同)	10)
アレ雲ガ	雲ガ	(同)	2)	ワシハ今カラ	今カラワシハ	(同)	10)
こゝは国名にはあらず	ナシ	(同)	3)	恋シウ思フタビゴトニ	恋シイタビゴトニ	(同)	10)
ツモツテ	ウモツテ	(序四)	オ3)	君には	君に	(同)	ウ1)
ユヅリアフテ	ユヅリアヒテ	(同)	ウ1)	此君ニケサト云哥ハ	此哥ハ	(同)	6)
梅ノ花ヲ云タデアアラウ	梅ノ花デアアラウ	(同)	3)	マユニ	マエニ(誤写)	(同)	8)
いひけるは	いひしは	(同)	4)	出ヌ	出ヌ(誤写)	(同)	8)
ととをと	ととをと	(同)	5)	叶ウ	叶フ	(序七)	オ1)
アサカ山	浅香山	(同)	7)	ナドニヨセテ	ナドニツケテ	(同)	8)
御用デ	ナシ	(序五)	オ2)	此ワガ恋ハト云哥	此哥	(同)	9)
キツウブケウニ	ブケウニ	(同)	3)	タトヘ哥ハ	チヤガタトヘ哥ト云ハ	(同)	9)
はじめにも	はじめに	(同)	6)	タトヘ哥八物ニタトヘテ			

云テアラハニハ云ハヌチ ヤニヨツテカクレタ所ガ	ナシ	人ヲ恋シウ思フコトヲ云 タリ	人ヲ思フタリ	(同)	ウ2)
ナウテハスマヌ	始メノ	そはもと	そは	(同)	ウ7)
チヤケレドモ始メノ	ナビイテイクワイ	出たる言にて	出て	(同)	ウ7)
ナビイテイクワイ	此哥	いへり	いふ詞也	(同)	ウ8)
此イツハリノト云哥	云モノニハ	ヨツテハ	ヨツテ後ニ	(序十一才)	ウ1)
云ニハ	ツビイテサ	クヨクト	ウヨクト(誤写)	(同)	ウ2)
ツビイテ	神ニ申ス	春ノコロ朝	春ノ朝	(同)	ウ5)
神へ申ス	哥ノシト(誤写)	面(カホ)ノシワ	額ノシワ	(同)	ウ7)
哥ノシナ	ハカレウコトハ	多ウ	多ク	(同)	ウ7)
分レウコトハ	カウテラウ(誤写)	繁盛シテ	栄エテ	(同)	ウ2)
カウアラウ	ナドニハ	羽根ガキスル数	羽根ガキ	(同)	ウ7)
ナド云時ニハ	ナシ	身ノウイ事ヲ	ウイ事ノアルヲ	(同)	ウ0)
昔ハサ	人のしわざ	恨ンダリ	恨ンダリスルニモヨミ	(同)	ウ0)
人々ノさま	ナシ	詞	こと	(序十二才)	ウ1)
然るに	見給は	かならず	ナシ	(同)	ウ7)
しるしめすは	哥のよきあしきを	ズツト昔カ	ムカシカラ	(同)	ウ0)
哥のさまを	しわざ	右ノ通り	此トホリ	(同)	ウ0)
かたのしわざ	ナシ	定メテ	ナシ	(同)	ウ1)
今一ツ	ことたらはぬをや	哥ノワケヲ	哥ノ事ヲ	(同)	ウ1)
こととゝのはず	ナシ	錦ノヤウニ	錦チヤト	(同)	ウ0)
たゞ愚なる方のみをいひ	ナシ	人麻呂ノ心	人麻呂ガ心	(序十三才)	ウ1)
てやむべきにはあらざる	アル時ヤノ(衍)	コレモ哥ニ	哥ニ	(同)	ウ3)
をや	アル時ヤノ(衍)	赤人ノ上	赤人ガ上	(同)	ウ6)
アル時ヤ	アル時ヤノ(衍)	下へオキニクイ	下ニタテニクイ	(同)	ウ6)

鳴テワタルアレ	アソタワイ(誤写)	サテ此	時代マデノ哥ドモ	題号ヲツケラレタ	昔ノ事	哥ノワケ	サテ今其人々ノ事ヲ云テ	ヤガ	其内ニ	ノケテオイテ	ソノ官位ノ高イ衆デハナ	シニ	哥ノ名ノ聞エタ衆	オヤマ	業平ノ哥	ナウナツテ	アキンドノ	始メトハテトノ	セヌ	昔ノ	花ノ木ノ下デ	見エル	上様	九年ニサ
鳴テワタル	アソタワイ	此	時代ヨリサキノ哥	名ケラレタ	古ヘノ事	哥ノ事	今此事ヲ云ニ		ナシ	ノケテ	ナシ	其名ノ聞エタ人々	女	業平	ナクナツテ	アキンドガ	終リノ	セス	古ヘノ	花ノ下デ	見ユル	天子	九年ニ	
(同)	(序十四才1)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(序十五才3)	(同)	(同)	(同)	(序十六才4)	(同)	(同)	(序十七才3)	(同)	(同)	(同)	
8)	4)	4)	4)	4)	ウ2)	2)	6)	6)	7)	9)	9)	9)	3)	10)	10)	ウ7)	ウ3)	ウ5)	ウ3)	ウ3)	ウ2)	5)	6)	
ドコカラドコマデモ	イツクノウラマデモミナ	カウムラヌ者ハナイ	時節	イロくノ御政事	ワレラ四人ノ者	集メテ	仰付ラレテ	春	君ノ御寿命ヲ長カレト思	フテ御祝ヒ申シタリ	其外ノ人ヲモ	又秋ノ萩ノ花	夏ノ草	恋ノ哥	四季恋ナドノ部	雑ノ哥	都合千首	巻ノ数ガ	古今和哥集トツケタ	カヤウニ此度	ヨイ哥ガ数オホクアツマ	ツタ	未長ウ繁盛スルメデタイ	コト
ドコカラドコマデ	ミナ	カウムル	御代	ヨロツノ御政事	此四人	ナシ	ナシ	君ヲイハヒ	人ヲ	秋ノ萩	夏草	哥	四季ノ部	哥	惣シテ千首	巻ノ数	古今和哥集ト云	右ノ通り	哥ノ数モオホウツモツタ		栄エルヨロコビ			
(同)	(同)	(同)	(同)	(序十八才3)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	
9)	9)	10)	10)	ウ2)	ウ2)	5)	6)	9)	(序十九才2)	2)	4)	4)	4)	4)	7)	7)	10)	10)	ウ3)	10)	ウ3)	3)	7)	

オモシロイトコロモナイ

をしへ子なる

誤れる

われとまく

云々とありといへり

横井千秋もわれらなるべしといへり

或人はいはく

例ありといへり

語

生レアヒテ

逢タコトヲサ

悦ビマス

末長ウ

傳ハツテ

まぎれたる

もしは若にて久しくとゞまればといふへかゝれる詞也

哥ノヤウスロモ

サテく

面白イコトモスクナイ

をしへ子

誤れる物

われとまれ

云々

なし

或人云

例あり

詞

生レアヒテ

逢タコトガサ

悦バシウ思ハレルコトヂヤ同

ナシ

傳ハツテノコツテ

まぎれたる

ナシ

(序二十オ1)

(同 3)

(同 3)

(同 4)

(同 6)

(同 7)

(同 7)

(同 7)

(同 9)

(同 ウ1)

(同 6)

(同 6)

(同 7)

(同 7)

(序二十一オ4)

(同 4)

(同 5)

(同 6)

(同 8)

(同 ウ1)

巻第一 春歌上

3 ナカく

4 マダ雪ノツモツテアル処へ

氷ツタ

5 枝へ

いまだ雪は

7 となへ来つる

けれかといふ詞は

万葉に

かははの誤と心得てさかしらに

改め

かけあひを思ひて

8 此節ノ

難儀ニ存ジマスル

9 木ドモノコノメ

此ヤウニ雪ガ

ナシ

花ノナイ里ニモサ花ガチルワイ

トント花ト見エル

10 春ニナツタコトナレバ

モウ花ガサキサウナ物ヂヤガマ

ダサカヌハ

ナシ

雪ノ内ニ

氷フタ(誤写)

枝ニ

ナシ

となへ来れる

けれかは

万葉などに

さかしらに直し

ナシ

ナシ

難儀ナ

木ノコノメ

雪ガ

花ノヤウニ見エテ

花ノナイ里ニモ花ガサチルワ

イ

ナシ

春ハキタニ

マダ花ノサカヌハ

- 春ノ来タガホドヨリ早イ
花ノサクノガホドヨリオソイ
鶯ナリトモ鳴イタラ
ソレデドチラヂヤト云コト
サテモマア鶯サヘナカヌコトカ
ナ
- 春ガ早イ
花ガオソイ
鶯ガナイタラ
ドチラト云コト
鶯サヘサテモマアナカヌコト
カナ
- 云ケレドモ
マダ鶯ガナカヌ
ナンデモ
思ウ
初ニ
ヒマ／＼カラ
幸便ニ
案内者ニハスルチヤ
なくは(。清)
谷カラ鳴テ出テクル鶯ノ声
シラウヅ
山中ノ里デハ
ナニモハリアヒガナサニ
シテサ
飛火野ノ番人ヨ
マウイクカバカリアツテカラ
若菜ヲツミニニハ来ウヅ
- 云ケレド
ナシ
ナシ
ナシ
思フ
初
ヒマ／＼ニ
便リニ
案内者ニハスル
(。清)ナシ
鶯ノ谷カラ鳴テ出テクル声
シラウゾイ
山里デハ
ナシ
シテサ(ぞ)
飛火ノ野ノ番ヨ
マウ(いま)イクカバカリシ
タナラハ
若菜ヲツムヤウニナルデアラ
- メツキリト春メイテ
オシナメテ(おして)
オホカタ若菜ガ
ソコモトヘ
春ガキタレバ
草ノ青イ色ガサ
ひらくをいふ
キレイナ白イ露
改マツテアタラシウナルケレド
モ
ダン／＼ト
アチモコチモ
ナンヂヤカ
(ましや)ナシ
オツ、ケ花ガサクチヤニマア
此ヤウニ
イヌルアノ雁ハ
昔カラナイ里
コトカイ
ナシ
ヨイワイ ア、ハレヨイニホヒ
- ウソ
キツウ春メイテ
(おして)ナシ
若菜ガ
貴様ヘ
春カクレバ
草ノミドリガサイロガ
ひらくるをいふ
見事ナ白イ露
アタラシウナレドモ
ナシ
アチコチノ
ナシ
コトツケラシテヤラウカヨ(ま
しや)
ナシ
イヌル雁ハ
ナイ里
コトカ
春ニナツテ霞ガタツタレバ
オツ、ケ花ガサクチヤニマア
シヤウクワンニ思ハレルワイ
- 18
15
14
13
12
11
19
20
21
24
25
26
27
28
29
30
31
33

チヤ

34 (あちきなく) ナシ

ムヤクナコトヂヤニ(あちきなく)

ドチラトモワケノタ、又

シ
トチラヘモツカ又ワケノタ、

梅ハウエマイソ

梅ノ花ハウエマイソ

42 此ヤドハコレコノトホリニサ

又
此方ハコレ此トホリ

花ガサケバ

ナシ

マヘカタノマ、デ

マヘ方ノマ、デサ

35 キツイ匂ヒナモノヂヤ

ナシ

ドウヂヤヤラ(いさ)

(いさ) ナシ

36 驚ガ笠ニ又ウト云

驚ガ又ウテ笠ニスルト云

心モカハラヌカカハツタカシラ

カハラヌカカハツタカ心モシ

37 オレハアハウナ

アハウナ

又ガ

ラヌガ

見テ居タガ

見テ申タ サウデハナイ

梅ノ花ガサ

花ガサ

又〃ヨソニ見タヤウナコトデハ

ナシ

ワシガ来タレバ

ナシ

ナイ

貴様ナラデハ

コレ此ヤウニ

コレ

38 貴様デナウテハ

貴様ナラデハ

43 匂ヒニアヒカハラズ

匂ヒニカハラズ

39 見エイデモ

ナシ

アノ水ノ中ニモ

水ノ中ニモ

40 ハテヨイトコロラ一枝折テヤラ

ナシ

今年モ又

又今年モ

ウト思ウガ

月夜ニハ

水とあるは

水といふは

此ヤウナ月夜ニハ

月夜ニハ

庭の池なれば哥にながる、川とよめるはその池につぎきたるや

御庭の池なればやり水もつぎきて有べし さる故に哥には

ミナオンナシヤウニ白ウ

ミナ白ウ

り水をいふなるべし

川とよめる也

ドウモ見分ラレヌ

分ツテハ見エヌ

春ハ

春ハイツデモ

コレデハ

スレヤ

春ハ

春ハイツデモ

ホカハナイ

外ハナイワイ

花ノチリカ、ルノヲ

ソノ花ノチリカ、ルノヲ

41 暗ウテ色コソ見エネ

色コソクラウテ見エネ

詞ガ同シコトヂヤニヨツテカウ

詞ガ同シコトナレバサウイヒ

ナンボクラウテモ

ナンボ闇デモ

ヨンダノチ

サウナ物

ナシ

スレヤ

ヤソエ

ヂヤワサテ

香ハカクレネバ

香ハカクレヌ

夜ガアケルト云テハ見イシテ

夜ガアケタト云テハ見シテ

隠レルデモナシ隠レヌデモナシ

隠レヌデモナシ隠レルデモナ

見テ居ルノニ

見テ居ルモノヲ

46 ソレガ春ノ形見デアラウニ
47 ソノブンデアラウコトヂヤニ

春ノカタミデアラウ
ソノブンデアラウコトヂヤ物
ヲ

袖ヘノコツタ

袖ヘノコツテ

48 恋シイトキくノ

恋シイ時ノ

49 此サクラノ花ヨ

桜花ヨ

51 霞ガ一メンニドコモカモ

霞ガ峯ニモ尾ニモ

53 イツソ世ノ中ニトント桜

世ノ中ニ一向トント桜

54 持テイナウモノヲ

持テイナウモノ

55 カウシテアノ見事ナ桜花ヲ見テ

アノ桜花ヲオレガ見テバツカ
リ

人ニハタゞ咄スバカリデオカウ

人ニハナサウカ ヤレ

コトカイ

見タセンガナイ

見タカヒガナイ

見タセンガナイ

56 京ノケシキガサ

京ノケシキガ

57 桜ハアノヤウニ

桜ハ此ヤウニ

さくらめどゞいひては

さくらめどにては

59 桜花モ

桜花ガ

アノ山ノアヒダカラ

山ノアヒダカラ

61 早ウチルトモ

早ウチルル

ナゼニイツモト同ジヤウニ

ナゼニ

早ウチルゾイ

早ウチルゾ

此結句のてにをは一格也 例多
し

結句のてにをは一格也 此例
多し

きゝとりがたし

聞えがたし

62 尋ネテ下サレヌ人

来ヌ人

今日マデチラズニ

チツト

アダニハナイ

アダナ物デハナイ

業平ヲアダナト

拙者ヲアダナト

ワシガ

拙者ガ

アノ様ヲ花ヂヤトハ見レ

花ヂヤト見タレ

雪ヂヤトコソ見ヤウケレ

ナシ

モトノ花トハ

モトノ花ト

ナシ

明日ハモウ花トハ見エマイワ
サテ サウヂヤゴザラフ(又

64 ナンボ

ナホ

65 折ルノ八惜イコトヂヤニ

折ル八惜イニ

66 ドレヤ此木ノ下デ

此木ノ下デ

67 形見ニキル物ヲ

形見ニキル物ヲバ

68 モウ来ハスマイヂヤニヨツテ

来ハスマイホドニ

ミンナ

ナシ

サカウコトヂヤニ

サカウコトヂヤ

今ハドコニデモ沢山ニ花ハ

今ハドコマデモ花ガ

山里ナドヘハ

山里ヘハ

卷第二 春歌下

- 79 盛リナ時ガアツテソレガ過テ
桜花
- 77 ドウナリトモナツテナツテシマ
ハウ
- 76 恨ミヨイハウ
- 75 桜花ノチル所ヘキテ見レバ
ソノマ、
コレハ
桜バナチヤニヨツテサ
- 74 見エヌノデアアラウ
勝手ニ散テシマヘサ
カヤウニヨミ候ユエ御目ニカケ
候已上
- 73 咲イタワト思フタウチニ
遍昭師ガ大方
毎日く
- 72 此ヤウニオモシロイ桜花ノチル
咲イタワト見タウチニ
遍昭ガ
毎日
- 71 散テシマウノガサ
ア、
- 70 ソレデシバシデモ
残リナシニ
散テシマウノガ
- 69 アノ山ノ桜ノ花
ソレデ
- 80 此山ノ桜花
ソレデ
残リナシス（誤写）
散テシマウノガ
- 81 水ノ上ヘチツテ流レル桜花ガア
レトツト沫ノヤウニ見エル
枝カラモモロウ散タ花
アノヤウニモロイ水ノ沫
サカズニ八竝又ゾ桜花ハ
見ベキ也
- 82 早ウチル物ヂヤトモ
ソレヨリ八人ノ心ガサ アダナ
モノチヤナゼト云ニ桜ハマダ風
ガフカネバメツタニチリモセヌ
ガ 人ノ心ハ
- 83 早ウチル物ヂヤトモ
ソレヨリ八人ノ心ガサ アダナ
モノチヤナゼト云ニ桜ハマダ風
ガフカネバメツタニチリモセヌ
ガ 人ノ心ハ
- 84 チルコトヤラ
ヒトリデニチルモノカト
タメシテ見ヤウニ
ソレサヘアルニ（だにあるを）
チレトイフコトデ
- 85 ナルコトヤラ（誤写）
チルモノカト
タメシテ見ヤウ
（だにあるを）ナシ
- 86 世間ノ人
世ノ中人
- 87 盛リテ時ガ過テ
山ノ桜花
- 88 此節
世間ノ人
世ノ中人
- 89 ソシテ海ベニ
海ベニ
- 90 フルイ昔ノ都
昔ノ都
- 93 アルコトヤラ
アルコトヤラ（らん）
- 80 チルアヒダナリトモ
マア見ヤウモノヲ
バカリ
セツカク
水ノ上ヘチツテ流レル桜花ガア
レトツト沫ノヤウニ見エル
枝カラモモロウ散タ花
アノヤウニモロイ水ノ沫
サカズニ八竝又ゾ桜花ハ
見ベキ也
早ウチル物ヂヤトモ
ソレヨリ八人ノ心ガサ アダナ
モノチヤナゼト云ニ桜ハマダ風
ガフカネバメツタニチリモセヌ
ガ 人ノ心ハ
- 81 チルアヒダナリトモ（だに）
見ヤウ物ヲ
バツカリ
ナシ
ナシ
枝カラモアダニ散タ花
アダナ水ノ沫
サカズニ八竝又ゾ
見るベキ詞也
早ウチルトモ
ナゼト云ニ桜ハマダ風ガフカ
ネバメツタニチリハセヌガ
ソレヨリ八人ノ心ト云物コソ
アダナモノナレ人ノ心ハサ

- 94 此ヤウニマア
アソバウゾ
- 95 サイハヒチャ花ノカゲニ
いへるにかなはず
野邊
- 96 今年チツテモ又
盛リハアラウ
毎年アツテモ
ナラヌ サウ思へバア、
イヒツケラル、
散テモ
- 97 此花ヲ馳走ニ折テ生テオイテ
来タナラバ見セウ
(こぬものゆゑに)ナシ
ア、
アツタラ花ノ枝ヲ
サテモ
- 99 此花ヲ馳走ニ折テ生テオイテ
来タナラバ見セウ
(こぬものゆゑに)ナシ
ア、
アツタラ花ノ枝ヲ
サテモ
- 100 此花ヲ馳走ニ折テ生テオイテ
来タナラバ折テオイテ見セウ
キモセヌニ(こぬものゆゑに)
ア、
花ノ枝ヲ
サテく
- 101 トント見カギツタ者ガアルゾ
アダナ物チャく
後の説はわるし
山ノ花ノ色ガ
見エルケレドモ
カクベツ遠ウモナイ
鷺ノナク野へ
- 102 山ノ花ノ色ガ
見エルケレドモ
カクベツ遠ウモナイ
鷺ノナク野へ
- 103 山ノ花ノ色ガ
見エルケレドモ
イカウ遠ウモナイ
鷺ノナクホドノ(ごと)野へ
- 105 鷺ノナク野へ
- 106 ドコノ野
アノ吹テクル風ヲ恨ンデナケサ
チヨツトナリトモ手ドモ
オトロウカイ
鷺ニオトラヌホド
アノ立田山
鷺ガ
自分ノ羽ノアヲチノ風デ
恨メシサウニ
外ノ物ガチラスカナソノヤウ
ニマア
- 107 オトロウカイ
鷺ニオトラヌ
立田山
- 108 鷺ニオトラヌ
立田山
- 109 鷺ガ
自分ノ羽ノ風デ
恨メシサウニ
外ノ物ガチラスカナソノヤウ
ウニ恨メシサウニ鳴ク
- 110 花ガチラズニアツタト云コトハ
此節フル京(サト)ハサゾヤ雪
ノフルヤウニサ ヒタくト花
ハチルデアアラウワイ
何ノ恨メシウ思ハウゾ
此世ニカウシテアラウモノカイ
花ト同シヤウニオツ、ケ死ンデ
ユク物チャ
- 111 花ノ散ラズニアツタコトハ
マヘ方ノ都ニ八定メテ此節ヒ
タ スラ雪ノヤウニサ サゾ
ヤ花ハチルデアアラウ
ナニシニ恨ミヤウ
世中ニアラウモノカ
トモニ死ンデイヌル物ナレヤ
- 112 何ノ恨メシウ思ハウゾ
此世ニカウシテアラウモノカイ
花ト同シヤウニオツ、ケ死ンデ
ユク物チャ
- 113 早ウチルトテ恨ミヤウハナイ
一ツく(ごとに)
アノ女等(ナ)ガサ
チリマガウ花デ
ワカナヲツム所へユク道ハマギ
レテ
- 114 恨メシウ思ハウヤウハナイ
(ごとに)ナシ
アノ女等(ハナ)ガ
一メンニチリチガウ花デ
其所へイク道ハシレイデ
- 115 恨メシウ思ハウヤウハナイ
(ごとに)ナシ
アノ女等(ハナ)ガ
一メンニチリチガウ花デ
其所へイク道ハシレイデ
- 116 恨メシウ思ハウヤウハナイ
(ごとに)ナシ
アノ女等(ハナ)ガ
一メンニチリチガウ花デ
其所へイク道ハシレイデ

- 117 所へキタワイコレヤ
ある人のいはく此詞書なる下の
にはよを写し
誤れるなるべし
春花ノチル時分ニ山ニトマツテ
春ノコロ花ノチル山ニトマツ
テ
夢ノウチニモ
チルコトバツカリヲサ
流レテクル谷川ノ水
見ヤウモノカ 見ラレハスマ
イニ
- 118 所へキタ
ナシ
春ノコロ花ノチル山ニトマツ
テ
夢ノウチニモ
チルコトバツカリヲサ
流レテクル谷川ノ水
見ヤウモノカ 見ラレハスマ
イ
- 119 ハイマツウテイナスナ
ハヒマツハレテシバラクトマ
ルヤウニセヨ
ドウゾハヒマツハレヨ
立カヘリくシテ
いふ意にはあらず
ドウモイヘメガ(誤写)
- 120 ドウゾハイマツウテトメヨ
ヒツカヘシくシテ
いふにはあらず
ドウモイヘメニ
色バカリデハナイ
(あやな)ナシ
(ななきそ)ナシ
ミエルヤウニ
ナシ
- 121 色バカリデハナイ
ワケノタ、ヌ(あやな)物チヤ
サカヌガヨイ(ななきそ)
見ニミエルヤウニ
咲タカヒガアツテ
風ガ吹テテ川ノ水ガ
チツタワイ(誤写)
- 122 色バカリデハナイ
ワケノタ、ヌ(あやな)物チヤ
サカヌガヨイ(ななきそ)
見ニミエルヤウニ
咲タカヒガアツテ
風ガ吹テテ川ノ水ガ
チツタワイ(誤写)
- 123 色バカリデハナイ
ワケノタ、ヌ(あやな)物チヤ
サカヌガヨイ(ななきそ)
見ニミエルヤウニ
咲タカヒガアツテ
風ガ吹テテ川ノ水ガ
チツタワイ(誤写)
- 124 色バカリデハナイ
ワケノタ、ヌ(あやな)物チヤ
サカヌガヨイ(ななきそ)
見ニミエルヤウニ
咲タカヒガアツテ
風ガ吹テテ川ノ水ガ
チツタワイ(誤写)
- 125 ナシ
山吹ガハヤモウ
マソツト早ウ
逢フヤウニ
春ノ山へ
マコトニ月日ガ早ウタツテ 矢
ヲイルヤウニ思ハル、春ニナ
ツテカラマダナンモナイニ
ナンボ惜ンデ鳴テモ
鳴キトモナウ
春モナイヤウニナツタワイ
思には意なし
思又いふといふ詞
そへていへる例
ノコリオホイコトチヤ
ズイブン
アノ花ガ
ツイテ(たぐふ)イクワ アノ
女(ハナ)ニマア(も)アホラ
シイコトカナ(はかなく)ツイ
テイタトテトメラレウ
今日ノ此雨ニ
春ハマダイクカモアルデハアル
マイ モウ當年ノ内ニハタツタ
- 126 蛙ノナク
山吹ガモウ
ナシ
逢タヤウニ
春ノ山へ、
尤ナ事チヤ 春ニナツテカラ
サテくメツタニ月日ガ早ウ
タツテ誠ニ矢ヲイルヤウニ思
ハレル
ナンボ鳴テモ
モウ鳴キトモナウ
春モナクナツタワイ
思に意なし
思又いふといふ詞
そへていふ例
惜イコトチヤ
ズイブンニ
チル花ガ
アノ女(ハナ)ニツイテイク
ワマアハカナイコトカナサウ
シタトテトメラレウ
- 127 山吹ガモウ
ナシ
逢タヤウニ
春ノ山へ、
尤ナ事チヤ 春ニナツテカラ
サテくメツタニ月日ガ早ウ
タツテ誠ニ矢ヲイルヤウニ思
ハレル
ナンボ鳴テモ
モウ鳴キトモナウ
春モナクナツタワイ
思に意なし
思又いふといふ詞
そへていふ例
惜イコトチヤ
ズイブンニ
チル花ガ
アノ女(ハナ)ニツイテイク
ワマアハカナイコトカナサウ
シタトテトメラレウ
- 128 ナンボ惜ンデ鳴テモ
鳴キトモナウ
春モナイヤウニナツタワイ
思には意なし
思又いふといふ詞
そへていへる例
ノコリオホイコトチヤ
ズイブン
アノ花ガ
ツイテ(たぐふ)イクワ アノ
女(ハナ)ニマア(も)アホラ
シイコトカナ(はかなく)ツイ
テイタトテトメラレウ
今日ノ此雨ニ
春ハマダイクカモアルデハアル
マイ モウ當年ノ内ニハタツタ
- 129 春モナイヤウニナツタワイ
思には意なし
思又いふといふ詞
そへていへる例
ノコリオホイコトチヤ
ズイブン
アノ花ガ
ツイテ(たぐふ)イクワ アノ
女(ハナ)ニマア(も)アホラ
シイコトカナ(はかなく)ツイ
テイタトテトメラレウ
今日ノ此雨ニ
春ハマダイクカモアルデハアル
マイ モウ當年ノ内ニハタツタ
- 130 春モナイヤウニナツタワイ
思には意なし
思又いふといふ詞
そへていへる例
ノコリオホイコトチヤ
ズイブン
アノ花ガ
ツイテ(たぐふ)イクワ アノ
女(ハナ)ニマア(も)アホラ
シイコトカナ(はかなく)ツイ
テイタトテトメラレウ
今日ノ此雨ニ
春ハマダイクカモアルデハアル
マイ モウ當年ノ内ニハタツタ
- 131 ノコリオホイコトチヤ
ズイブン
アノ花ガ
ツイテ(たぐふ)イクワ アノ
女(ハナ)ニマア(も)アホラ
シイコトカナ(はかなく)ツイ
テイタトテトメラレウ
今日ノ此雨ニ
春ハマダイクカモアルデハアル
マイ モウ當年ノ内ニハタツタ
- 132 アノ花ガ
ツイテ(たぐふ)イクワ アノ
女(ハナ)ニマア(も)アホラ
シイコトカナ(はかなく)ツイ
テイタトテトメラレウ
今日ノ此雨ニ
春ハマダイクカモアルデハアル
マイ モウ當年ノ内ニハタツタ
- 133 今日ノ此雨ニ
春ハマダイクカモアルデハアル
マイ モウ當年ノ内ニハタツタ
ル春デハアルマイ タツタケ

ケフ一日ナラデハ春ハナイト存
ズル故ニサ（とおもへば）
時デサへ（だにも）

フート日ナラデハ無イト存ス
ル故ニサ
（だにも）ナシ

167 166
コノ夜ノ短サデハ
花ガサイテカラハ

ソレデハ
花ガサイテカラ

卷第三 夏歌

136
メツラシイ

方々ノ桜

後二

140
五月ニナツタヤラ

ナクハアレ

居テ鳴ク

141
声ヲアゲテサ

149
ソチガ泣涙

鳴は

153
夜モイロくモヤクヤト

154
エイカヌノカ

158
過テイナレヌヤウニ

159
餘材わろし 打聞よろし

タエズ

162
此松山ニ

ナケバ

サホドニモ思ハナンダガ

キツウメツラシイ

アマタノ桜

オクレテ

140
五月ガキタヤラ

アレナクハ

居ル

141
声ヲアゲテ

149
ソチガ泣

鳴といふは

153
夜モモヤクヤト

154
イカヌノカ

158
過テイカレヌヤウニ

159
打聞よろし 餘材わろし

タクズ（誤写）

此（アタリノ）松山に

ナクハ

サホドニモナカツタガ

卷第四 秋歌上

170
浪モ立ツト云也

173
ワシハ秋風ノフキノメタ

毎日く此ヤウニ此天川

174
其船ノ棹ヲシレヌヤウニ

川渡ツテ御カヘリ

コチニ御逗留

176
霧ガ一メンニ立テ

アケ子バヨイ

177
アチヤコチヤトシテヒマドツテ

一年ニタツタ一度

キコエヌ

179
一度グラサアウノガ

180
逢ツシヤル夜

タナバタ祭ニ

是は七夕によめるおのが恋の哥

也

182
渡リモセヌサキニ

183
タナバタ様

浪モタツト云ヒ

秋風ノ吹ソメタ

毎日く天川

船ノ棹ヲ

御カヘリ

御逗留

一メンニ霧ガタツテ

アケ子バヨイニ

アチヤコチヤトシテサテ

一年ニ一度

キコエヌワイ

一度アウノハ

逢夜

棚機ニ

寄七夕恋の哥ときこゆ

渡ラヌサキニ

タナバタ

201	200	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	186																		
来年ノ	来年ノ	虫ノ声ヲ	物思ヒスル	虫ノ声ヲ	物思ヒタル	頂上	其舎の異名に	まがふべからず	アルデアラウガ	ナシ	ナシ	ヨウ見エル	ヨウ見エル	ホドサヤカナ月チ	ヤ	聞ユル	マウ月ガ	イロくト物ガサ	秋ハヤツハリ	クラブノ山	イロくト心苦ガアツテ夜ノ	長イヨキツウ	御テイシユ	オレガヤウニ	枯カケテキル (誤写)	ナシ	聞ユルワイ	マヨフタ	宿ヲカラウカイ	宿ヲカッタモノデアラウカイ
来年ノ	来年ノ	虫ノ声ヲ	物思ヒタル	頂上	其舎の異名に	まがふべからず	アルデアラウガ	ナシ	ナシ	ヨウ見エル	ヨウ見エル	ホドサヤカナ月チ	ヤ	聞ユル	マウ月ガ	イロくト物ガサ	秋ハヤツハリ	クラブノ山	イロくト心苦ガアツテ夜ノ	長イヨキツウ	御テイシユ	オレガヤウニ	枯カケテキル (誤写)	ナシ	聞ユルワイ	マヨフタ	宿ヲカラウカイ	宿ヲカッタモノデアラウカイ		
庭デ	庭デ	今カラトテモ来ル人ハ	ルマイニ	鳴クコトヤラ	アルマイニ	ア、サビシイコトヂヤ	ナシ	待ッ人がキタカナソノヤウニ	ケサ始メテ雁ノ鳴ク声ガサテモ	メヅラシウ思ハレルコトカナ	コチガ待テ居ル人デハナイチヤ	ケレド	アノ鳴雁	稲負鳥	又ナクワ	雁	イツデモト云ウチニ	散テシマウタ	鳴ク声ヲ	秋ノウチデハイツチ	ナシ	サイタワイ(けり)	アラウ(らん)カ(や)	致シタケレド	致シタケレドモ	致シタケレドモ	致シタケレドモ			
庭デ	庭デ	今カラトテモ来ル人ハ	ルマイニ	鳴クコトヤラ	アルマイニ	ア、サビシイコトヂヤ	ナシ	待ッ人がキタカナソノヤウニ	ケサ始メテ雁ノ鳴ク声ガサテモ	メヅラシウ思ハレルコトカナ	コチガ待テ居ル人デハナイチヤ	ケレド	アノ鳴雁	稲負鳥	又ナクワ	雁	イツデモト云ウチニ	散テシマウタ	鳴ク声ヲ	秋ノウチデハイツチ	ナシ	サイタワイ(けり)	アラウ(らん)カ(や)	致シタケレド	致シタケレドモ	致シタケレドモ	致シタケレドモ			
庭デ	庭デ	今カラトテモ来ル人ハ	ルマイニ	鳴クコトヤラ	アルマイニ	ア、サビシイコトヂヤ	ナシ	待ッ人がキタカナソノヤウニ	ケサ始メテ雁ノ鳴ク声ガサテモ	メヅラシウ思ハレルコトカナ	コチガ待テ居ル人デハナイチヤ	ケレド	アノ鳴雁	稲負鳥	又ナクワ	雁	イツデモト云ウチニ	散テシマウタ	鳴ク声ヲ	秋ノウチデハイツチ	ナシ	サイタワイ(けり)	アラウ(らん)カ(や)	致シタケレド	致シタケレドモ	致シタケレドモ	致シタケレドモ			

もじ心をつくべし

もじに心をつくべき哥也

巻第五 秋哥下

250 バツカリガ(ぞ)

251 イツチャカ

252 ヨソニ聞テ

254 神ナミ山

256 秋ノタチソメタ日カラシテ

カハツテキタガ

257 今日見レバ此山ノ木共

露ノ色ハ

イロイロノ色ニ

259 サウデハナイサウナ 色々チガ

ウテオク

サウナ ソレデコソ染ツタ山ノ

木葉ガアノ

ヤウニサマクノ色デアラウ

261 傘ヲモツ

ドウシテ

262 コレハマア

神ノ御守リデ

色ハカハリソモナイモノナレド

バツカリガサ

イツチャヤラ

聞テ(脱力)

神ナビ山

秋風ノ始メテフイタ日カラ其

カハツタガ

見レバ此音羽山ノ峯ノ梢ドモ

白露ノ色ハ

イロイロニ

サウデハナイ 色々別々ニオ

ケバ

コソアノヤウニ山ノ木葉ガ染

ツテ

イロくニナツタデアラウ

傘ヲトル

ソレテ(ナンデ)

コレハマタ

神ノ御マモリガアラウケレド

ナシ

263 コトノ外ヨウ染テ

袖マデサ

264 此紅葉

チラヌサキカラサ

モウ十分ニソメタレバ

265 大切ニスル錦デ

セツカク紅葉ヲ見ヤウト思フテ

キタニ

268 今此サホ山

コレカラ後

267 秋ト云時ガナイコトガアツタラ

バコソ

秋ト云時サヘアラバ

咲デアラウハサテ

270 トリチガヘラレマスルワイ

269 秋ヲ久シウ重ネテ長生ヲスルヤ

ウニ

春ウエタ

271 早ウ花ノサク秋ニシタイトマチ

ドホニ思フタ菊ガ

274 キル物ノヌレタヲ

273 花のもと(ソバ)

庭ノ菊ノ花

ナシ

袖マデガサ

紅葉

八ヤマヘ方カラ

此ヤウニ至極ヨウ染タハモウ

カギリヂヤ

大切ニシテ裁(ツ) 錦デ

ナシ

此サホ山

此ウヘ

秋ト云モノガナイ時ニコソ

秋サヘアラバ

咲ウハサテ

トリチガヘラレマスワイ

秋ノ久シイヤウニ

ウエタ

花ガマチドホニアツテ早ウ花

ノサク時ニシタイトバツカリ

コソ思フタレ ソノ菊ガ

ヌレタノヲ

(ソバ) ナシ

菊ノ花

庭ノ花

312 311 310 309 308 307 306 305 304 303 300 299 296 295
 シタト云コトハ
 イツカウキカヌ
 今
 錦ヲ着ルコ、口モチ
 アノトホリニ
 其西にて津国嶋上郡也
 アレ風ガモテキテ
 アレハ風ガフクデ
 底ヘヨウウツ、テ
 よませ給ひ(オヨマセナサレ)
 川ガ渡ラレヌ
 ナンボフツタトテモ
 マシハスマイ
 此ゴ口ハ来キテ
 ア、ナンギナ
 又アトヘハエタヒツチ
 持テ此山ヲ出テ
 サウ思フテ居ル人
 水ノ色ヲ見レバサ
 秋ノ紅葉ヲ
 所デアラウカイ
 クレテユク
 アレアノ小倉山デ

スルト云コトハ
 キカヌ
 オレガ今
 錦ヲタツテキル物ニシテ着ル
 コ、口モチ
 アノトホリ
 津国嶋上郡にて
 風ガ
 アレハ
 底ヘウツ、テ
 () ナシ
 渡ラレヌ
 フツタトテモ
 マサリハスマイ
 ナシ
 ア、ナンギナ
 又ハエルヒツチ
 持テ出テ
 サウ云人
 水ノ色ヲ見テサ
 紅葉ヲ
 所デアラウカ
 暮テイク
 アノ小倉山デ

巻第六 冬哥

335 333 331 329 328 327 326 324 323 320 318 317 315 314
 機ヘカケ(かく)テ
 此例多し
 サウナ(らし)
 ケシキキツウ
 ヨドンデアツタ木葉ガ
 冬こもりせる(本文)
 タヒラ一メンニツモツタレバ
 岩ヘモサ花ガ咲タト見エル
 浪モコエナン
 今カウ
 海邊近イ所ヘ
 末ノ松山ヲサコエルノカト
 餘材此初句を
 寒氣ノツヨイトコロナレバモシ
 心マデガ
 我心ハ
 心ガキエル
 花ノチルト
 此雪ハマダキエヌ
 マレニコソフリモセウケレ
 花ノ色ハ

(かく) ナシ
 例多し
 (らし) ナシ
 ケシキガキツウ
 ヨドンデアツタノガ
 冬こもりける
 フリツモレバ
 岩ホヘモ咲タ花トサ見ユル
 浪モコエナン(誤写)
 今カラ(誤写)
 浦ノ近イ所ヘ
 末ノ松山ヲコスノカトサ
 餘材ハ初句をも
 寒氣ノツヨイ所デ
 心ガ
 人ノ心ハ
 オレガ心ガキエル
 花ガチルト
 マダ消エヌ
 此雪ハマレニコソ見ヤウケレ
 梅ハ花ノ色ハ

梅ノ花ヂヤト

香ナリトモ(だに)

ツモツタ雪ニ

香ガマガハネバコソ

コチガコレホド

フルサガマサツテサ

年ガヨツテイク ア、コマツタ

モノヂヤ

ヤツハリ

アスカ川

面(カホ)ハシワガヨツテ

暮テユク

思ハル、

梅ノ花ト

(だに)ナシ

雪ニ

香ガマガハネバコソ分ルレ

ワシガコレホド

フルサガマサツテ

トシガマサツテイクワイ

ナシ

スカ川(誤写)

ナシ

暮テイク

思ハレル

卷第七 賀歌

コマカイ石ガ

御長壽ノ

しほの山

シホノ山

千鳥ノ鳴クヲキケバ

越ラル、デアラウト思ハル、

初老ト申テコレカラ

コマカイ石ノ

御長壽デゴザラツシヤル

しをの山(本文)

シヲノ山

千鳥ガ鳴クノヲキケバ

越ルデアラウトサウ思ハレル

コレカラ初老ト申テ

336

339 338

342 341 340

349 348

345 344 343

ソノ老メガ

山ノ名サヘメデタイ亀山ナレヤ

日数ガスクナウ

始メナサルデアラウ

しるとははからひおこなふをい

ふ也 たゞつねにいふしるの意

のみにあらず

貴様

サウシテ

御寿命ヲ万年マデト

春日ノ御神

しるらむの意上にいへるがごと

し

秋ニナツテモ

ソノ老ガ

山ノ名サヘ亀山ナレバ

日数ガスクナイヤウニ

始メマセウ

たゞつねにいふしるの意のみ

にはあらず はからひおこな

ふをいふ也

君

ソウシテ

御寿命ノ万年モト

春日ノ神

ナシ

秋ガキテモ

卷八 離別哥

因幡国ヘ下ル

ワシハイクヂヤガ

忘レルマモナシニ思ウテ

アトヘ残シテオカウカイ(おく

らさんやは)

身ノ守リ

因幡国ヘイク

オレハイクヂヤガ

忘レルマハナシニ思フテ

()ナシ

守リ

354 353 351 350

357 356 355

362

367 365

368

- 369 ドウゾ
はなむけしけるよゝめる
- 371 涙チヤワイ
コ、チガスルデアラウ
恋シウ思ハル、
其名ノ通りチガヒナイナラバ物
別レウハズハナイスレヤ
此關デトゞメヨ
- 372 374 375
ワシヨバステ、オイテ
年へてすみける人(カヨウタ女)
毎日アハレル
今別レテ跡ニ残ルト
此手向ノ麻
御旅立テゴザルコトカナ
アチヲ(をち)
- 376 378 379
かへり(コシノ国へ)けるとき
又下ラツシヤル国
居トマラズニ
アチヘカヘル
オナツカシウ思テ(こひ)
月日ヲタテルデゴザラウ(わた
らむ)
- 380 382
ゴザラウカ(や)
アノハウヘ参ツテ
- 384 ナシ
はなむけしけるよしめる(誤
写)
涙チヤサウナ
コ、チガセウゾ
恋シウ思ハレル
其通りナ物ナラハ
別レウハズハナケレバ
トゞメヨ此關デ
ワタシヨバ跡ヘオイテ
(ツレソフタ人)
毎朝毎日アハレル
今別レルト
手向ノ此麻
御旅ダチカナ
(をち)ナシ
(コシへ)
イカツシヤル国
トマラズニ
アチヘカヘル(誤写)
(こひ)ナシ
(わたらむ)ナシ
- 387 388 389
木ノ上デ
アレ郭公ガ高ウ鳴キマス 郭公
モアノトホリ
御別レ申スガ
旅デハナイ
我身チヤニ
ツキシウテ来レバ
コレカラ帰ルトキニハ此身ハ
心トハナレテ
- 391 392 393 395 396 397 398
下ラツシヤル
アトカラ参ラウ
タカタノ
夜ルハドウモ
ヤウニ(べく)
ナンデモ
オノくガタモ
オカヘシ申サウヤウハナイワサ
テ
ソチガタメニモ
拙僧ガ此淚ガ
アノ萩ノ花ヲ此雨ニヌラシテシ
ヲラカシテシマウノハ
ソノウチニ雨モヤミマセウワサ
テ
別レヲ惜ンデ拙者ヲ御深切ニ思
- 399 400 401 402 403 404 405
ナシ
イカツシヤル
参ラウ
夕暮ノ
夜ルハ
(べく)ナシ
ナシ
オノくモ
ナシ
ソチガタメニモ(誤写)
涙ガ
秋ノ花ノ此雨ニヌレテ散テユ
クノハ
ナシ
- 406 407 408 409 410 411 412
拙者ヲ惜ンデ下サレウトハ

ウテ下サレウトハ

モウラチノアカヌ

ナゴリヲシウ思ハレルヤウニ

トント玉ノヤウニ

此ヤウニ泣ク涙

マツクラニナツテ

ナンボトメテモ

エユカヌホド

山ノシミツハ

其手カラ

飲ミタラヌ物

残り多イアノ人ニ

カウ別々

ラチノアカヌ

ナゴリヲシイヤウニ

玉ノヤウニ

泣ク涙

カキクラシテ

トメテモ

ユユカヲホドニ(誤写)

山ノ井ハ

其手カラ(誤写)

残り多イ物

ノコリ多ウテアノ人ニ

此トホリ別々

ぬを

無事デヱルカ(ありや)ドウチ

ヤ(なしや)

雁ガサ

京チカクノ山

ナンデモ糸ニヨレバ

トクト見ヤウ

サテヨイ所ヘキタ

タナバタ

出家ノ身モ

ツヅリノ袖

ツヅリノ切レ

て見えぬを

() ナシ

雁ガ

京ノ山

麻ナドヲ糸ニヨレバ

トツクリト見ヤウ

ヨイ所ヘキタ

棚機

出家モ

ツヅリノ袖(誤写)

ツヅリノ袖

卷第九 羈旅歌

409 408 407
過テイクベキ海上
キルモノヲ一ツ
夜ノウス<>ト
小野ノ篁ノ卿

心得誤りて

四の句の説たがへり

朝霧にかくれて明石の浦の見え

過テイク海上

キルモノヲ

ソロ<>夜ノウス<>ト

篁ノ卿

心得誤りたる人の

四の句の説ひかこと也

すなはち明石浦の霧にかくれ

卷第十 物名

422 ナシ

ヒタスラアノヤウニナクノハド

ウ云コトヤラ

マチカネテナク
ソレデゴザルト云テ

ウイテハシツミ ウイテハシツ

ミスルヤウニ

ナニホドモナケレバ

ドウ云コトデアノヤウニ

ヒタスラナクコトヤラ

マチワビテナク

ソレチヤト云テ

ウイテハシツムヤウニ

イクカモナケレバ

